

講義名	地域経済論			授業形態	
担当教員	丸山 亜希子	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

現在、日本では東京の一極集中が進み、他の地域はそれぞれ地域活性化に力を入れている。各地域を発展させるためにはどうしたらよいのだろうか。また、なぜ東京一極集中が進んでいるのだろうか。本講義では、まず経済データを用いて日本の人口移動および産業集積について過去から現在にかけての状況を確認する。そして、産業集積が都市や地域を発展させる上で非常に重要な役割を担っている事を実証し、集積を応用した都市・地域発展政策を考える。また一方で、地域間格差などの日本が直面している地域問題の現状と課題についても理解を深める。

到達目標

産業集積が都市や地域を発展させる上で非常に重要な役割を担っている事を理解できるようになる。
集積の経済の観点から、将来の地域経済に必要な政策は何か、地域活性化のための政策について考察を与えるための基礎知識を習得できるようになる。

提出課題

各段（学期中）の課題と、期末に定期試験を実施します。
詳細は第1回の授業で説明します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

各段（学期中）の課題については、締め切り後の授業回で解答・解説を行う予定です。

評価の基準

学期中の課題 30%
定期試験 70%
の割合で成績評価します。

履修にあたっての注意・助言他

「経済学入門」で扱う内容は修得済みとして授業を進めるため、「経済学入門」が履修済みであることが望ましい。
Ryuka Portalの講義連絡で連絡することがありますので、その心づもりをし、常に気を付けておいて下さい。

教科書

.使用しない。

参考図書

.地域経済学入門.	山田浩之・徳岡一幸	有斐閣	2750	9784641165229
.都市と地域の経済学.	黒田達郎・田淵隆俊・中村良平	有斐閣	2750	9784641183711

その他

授業内にレジュメを配布する。レジュメには空欄を設けています。

授業計画

- 第1回 イントロダクション 神戸を地域経済学的にみる
- 第2回 地域の概念（地域を経済学的に考える）
- 第3回 日本の地域構造（データでみる地域）
- 第4回 日本の人口移動（過去から現在にかけて）
- 第5回 東京一極集中とその問題点
- 第6回 ストロー効果
- 第7回 産業の立地
- 第8回 都市の形成（1）規模の経済
- 第9回 都市の形成（2）集積の経済
- 第10回 地域経済学からみた地域活性化政策とは？（1）地方の現状
- 第11回 地域経済学からみた地域活性化政策とは？（2）政策事例
- 第12回 コンパクトシティ政策
- 第13回 地域間格差
- 第14回 産業クラスター政策
- 第15回 神戸市の医療産業クラスター政策

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

配布資料を使って授業を行うため、予習はしなくても良いが、毎回復習として、授業内容の要点を自分の言葉でまとめておくこと（2時間/回）。また、数学のグラフで理解しなければならぬ内容を扱う授業回がある。このとき、数学の知識を忘れていた人は各自で数学の復習も行った上で、授業内容を理解する必要がある（2時間以上）。このほか、レポート課題の作成に復習が必要となる。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

目標を達成することで、社会的に望ましい各個人の行動、企業行動、政府行動を考えることができるようになる。これにより、ディプロマポリシーの「人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察し、課題を提案することができる。」に到達する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

課題提出やアンケート等にクリックシステム（レスポンスまたはキャンパスクロス）を使用する。

実務経験の有無及び活用

備考

履修者が多い場合は座席を指定します。配慮を希望する人は、教務部に直接ご相談ください（要証明）。